

一般社団法人 日本原子力学会
第 68 回 標準委員会 (SC) 議事録

1 日時 2017 年 03 月 08 日 (水) 13:30~20:00

2 場所 5 東洋海事ビル D 会議室

3 出席者 (敬称略) (開始時)

(出席委員) 関村委員長, 越塚幹事補佐, 青柳(途中から退室), 井口(途中から退室), 伊藤, 上田(途中から退室), 大鳥(途中から入室), 岡本(太), 河井, 清水, 高橋, 多田(途中から退室), 谷本(途中から退室), 中井(途中から退室), 西野, 萩原, 藤森(途中から退室), 渡邊(18名)

(フェロー委員) 宮野(途中から退室), 成合(途中から入室)(2名)

(代理委員) 波木井順一(東京電力ホールディングス/姉川)(途中から退室), 鈴木嘉章(原子力安全推進協会/岡本(孝)), 加藤和之(原子力損害賠償・廃炉等支援機構/新堀), 林健太郎(関西電力/成宮), 成宮祥介(関西電力/山口)(5名)

(委員候補代理) 小出正(中部電力/竹山弘恭(中部電力))(1名)

(欠席委員) 小原, 寺井, 本間, 吉原(4名)

(常時参加者) 鈴木, 山中(途中から退室)(2名)

(オブザーバ) 北嶋宜仁(日本原子力発電株式会社), 北嶋英明(原子力安全推進協会)(2名)

(説明者) 【外的事象 PRA 分科会】 桐本幹事, 【LLW 処分安全評価分科会】 吉原委員, 【水化学管理分科会】 北嶋幹事, 都筑常時参加者, 【核燃料施設リスク評価分科会】 吉田主査, 眞部幹事, 高橋常時参加者, 【レベル 3PRA 分科会】 成宮幹事, 【炉心燃料・熱水力関連標準の改定要否等検討のためのタスクグループ】 鈴木幹事, 【LLW 放射能評価分科会】 北嶋幹事, 柏木常時参加者, 【統合的安全性向上分科会】 成宮主査, 倉本幹事, 林常時参加者, 【シビアアクシデントマネジメント分科会】 植田主査, 鎌田幹事, 【標準活動基本戦略タスク】 伊藤副主査, 河井幹事, 成宮幹事, 高橋委員, 中越事務局, 【原子力安全検討会】 河井幹事, 【リスク専門部会】 成宮幹事(延べ 23 名)

(事務局) 中越, 谷井(2名)

4 配布資料:

SC68-0 第 68 回標準委員会議事次第(案)

SC68-1 第 67 回標準委員会議事録(案)

SC68-2-1 人事について(標準委員会)

SC68-2-2 人事について(専門部会)

SC68-3-1 “原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準: 201X” 改定案の公衆審査結果

SC68-3-2 “原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準: 201X” 改定案の誤記チェックの状況について

- SC68-3-3 “原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X”改定案の津波 PRA 作業会チェック結果 対応表（案）
- SC68-4 “浅地中処分の安全評価手法：201X（案）”の公衆審査結果
- SC68-5-1 “沸騰水型原子炉の水化学管理指針”の標準委員会決議投票結果
- SC68-5-2 “加圧水型原子炉一次系の水化学管理指針”の標準委員会決議投票結果
- SC68-5-3 “沸騰水型原子炉の水化学管理指針”の標準委員会決議投票で受付けた意見への対応表
- SC68-5-4 “加圧水型原子炉一次系の水化学管理指針”の標準委員会決議投票で受付けた意見への対応表
- SC68-5-5 “沸騰水型原子炉の水化学管理指針”改定前後比較表
- SC68-5-6 “加圧水型原子炉一次系の水化学管理指針”改定前後比較表
- SC68-6 “核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準：201*”策定に関する本報告
- SC68-7 “原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編）：2016”の転載許諾手続き等における修正
- SC68-8 “再処理施設における原子力安全の基本的考え方について”への意見募集結果
- SC68-9-1 標準活動基本戦略タスクの委員交代について
- SC68-9-2 標準策定 5 年計画
- SC68-9-3 標準委員会用語辞典への意見募集結果
- SC68-9-4 ASRAM2017 の日本開催に係る原子力学会の主催（担当：標準委員会）について
- SC68-10-1 標準活動基本戦略タスク 2016 年度第四回議事録（案）
- SC68-10-2 標準委員会活動全体計画（年間工程表）（H28 年版，H29 年版）
- SC68-10-3 “倫理規程の周知徹底”に関する活動状況について
- SC68-10-4 標準作成手引きの見直し（案）（比較表）
- SC68-10-5 2016 年度収支状況（見直し）と 2017 年度以降予算（予算中期計画）
- SC68-10-6 規程の改定及び平成 28 年度標準活動運営委員会議事録
- SC68-10-7 標準の品質向上に係る ANS 米国原子力学会との意見交換の概要
- SC68-10-8 学協会協議会及び基本戦略タスクでの学協会規格整備計画の検討状況（その 21）
- SC68-11 「統計的安全評価手法標準分科会」の再開について
- SC68-12 「BWR 熱流動評価分科会（仮称）」の設置について
- SC68-13-1 【中間報告】“余裕深度対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の改定について
- SC68-13-2 中間報告（概要）“余裕深度対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”改定（案）
- SC68-14 BWR 分析標準の進捗報告（中間報告）
- SC68-15 統合的安全性向上分科会での“原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X”の検討状況について
- SC68-16 日本原子力学会標準“原子力発電所におけるシビアアクシデントマネジメント

トの整備及び維持向上に関する実施基準：201X ” 改定に関する中間報告

- SC68-17-1 第2回 JIWG 配布資料
- SC68-17-2 JCNRM(2017.2)配布資料 (JIWG 関連抜粋)
- SC68-18 専門部会活動状況報告
- SC68-19 標準委員会の活動状況

参考資料

- SC68-参考 1 標準委員会委員名簿
- SC68-参考 2 標準委員会開催スケジュールについて (案)
- SC68-参考 3 第2回 JIWG 議事録
- SC68-参考 4 2017年2月 ASME/ANS JCNRM 参加報告

5 議事内容

事務局から開始の時点で委員(フェロー委員含め)29名中、25名の出席があり、委員会成立に必要な委員数(20名以上)を満足している旨、報告された。

(1) 前回議事録の確認 (SC68-1)

前回議事録(案)について配付された案で承認された。

(2) 人事について (SC68-2-1, SC68-2-2)

事務局配付資料の SC68-1, SC68-2-2 に基づいて、標準委員会、専門部会の人事について以下の提案があった。

なお、人事案件は、確認事項を除き対象者は退席し、委員のみの自由討議を経て、審議される。

a. 標準委員会人事

① 委員再任の理事会による承認の確認

- 大鳥 靖樹 (電力中央研究所)
- 岡本 孝司 (東京大学)
- 清水 直孝 (日本原子力保険プール)
- 関村 直人 (東京大学)
- 高橋 久永 (三菱重工業)
- 渡邊 宏 (日揮)

② 委員退任の確認

- 鶴来 俊弘 (中部電力)

③ 委員の選任決議

越塚誠一 (東京大学) (ただし、このまま標準委員会委員に選任された場合、下部組織である専門部会委員及び分科会委員とを重複することになり、標準委員会運営細則に基づく当該標準委員会委員選任での委員重複についての承認を必要とするため、この承認についての審議を今回の標準委員会委員選任による委員退任等で見直した委員重複結果に基づき次回の標準委員会で行う前提での選任決議)

- 竹山 弘恭 (中部電力)

④ 委員再任の決議

- 萩原 剛 (東芝)

岡本 太志（富士電機）

⑤ 基盤応用・廃炉技術専門部会部会長選任（決議）の承認決議

萩原 剛（東芝）

理事会による委員再任の承認等が確認され、審議の結果、委員の選任等が決議された。副委員長に越塚委員が指名された。

b. リスク専門部会

①委員退任（確認）の確認

Woody Epstein (Curtiss -Wright Co.)

竹山 弘恭（中部電力）

②委員選任（決議）の承認（決議）

松本 和之（中部電力）

③委員再任（決議）の承認（決議）

村田 尚之（原子力安全推進協会）

委員退任（確認）の確認がされ、審議の結果、委員選任（決議）等の承認が決議された。

c. システム安全専門部会

① 常時参加者登録解除（確認）の確認

工藤 義朗（原子力規制庁）

② 幹事指名の確認

鈴木 嘉章（原子力安全推進協会）

常時参加者登録解除（確認）等が確認された。

d. 基盤応用・廃炉技術専門部会

① 委員再任（決議）の承認（決議）

北島 庄一（電力中央研究所）

② 常時参加者登録解除（確認）の確認

工藤 義朗（原子力規制庁）

③ 副部会長退任の確認

越塚 誠一（東京大学）

④ 幹事指名の確認

堺 公明（東海大学）

常時参加者登録解除（確認）等が確認され、審議の結果、委員再任（決議）の承認が決議された。

e. 原子燃料サイクル専門部会

① 委員再任（決議）の承認（決議）

新堀 雄一（東北大学）

上田 真三（三菱マテリアル）

大久保 和俊（原子燃料工業）

坂下 章（三菱重工業）

高橋 邦明（日本原子力研究開発機構）

藤田 智成（電力中央研究所）

山本 正史（原子力環境整備促進・資金管理センター）

審議の結果、委員再任（決議）の承認が決議された。

同様に各専門部会の下部組織である分科会人事での確認事項について確認された。

- (3) 【報告・審議】“原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X”改定案の公衆審査結果について（SC68-3-1， SC68-3-2， SC68-3-3）

事務局から SC68-3-1 に基づいて，“原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X”改定案の公衆審査で意見がなかったことが報告された。引き続いて、外的事象 PRA 分科会の桐本幹事から SC68-3-2，SC68-3-3 に基づいて，当該改定案の誤記チェック結果及びその結果を反映した当該改定案の対応案が報告された。審議の結果，当該対応案は編集上の修正であること及び当該対応案を反映した標準案で制定することが決議された。

- (4) 【報告・審議】“浅地中処分の安全評価手法：201X（案）”の公衆審査結果について（SC68-4）

LLW 処分安全評価分科会の吉原委員から SC68-4 に基づいて，“浅地中処分の安全評価手法：201X（案）”の公衆審査で意見がなかったことが報告された。

審議の結果，制定することが決議された。

- (5) 【報告・審議】“沸騰水型原子炉の水化学管理指針”及び“加圧水型原子炉一次系の水化学管理指針”の標準委員会決議投票結果及び受付けた意見対応について（SC68-5-1， SC68-5-2， SC68-5-3， SC68-5-4， SC68-5-5， SC68-5-6）

事務局から SC68-5-1, SC68-5-2 に基づいて，“沸騰水型原子炉の水化学管理指針”及び“加圧水型原子炉一次系の水化学管理指針”の標準委員会決議投票で当該標準案が可決されたことが報告された。引き続いて，水化学管理分科会の北島幹事，都筑常時参加者から SC68-5-3， SC68-5-4， SC68-5-5， SC68-5-6 に基づいて，当該決議投票で受付けた意見への対応案が報告された。審議の結果，当該対応案は編集上の修正であること及びこの対応案を反映した標準案で公衆審査に移行することが決議された。

質疑等は以下のとおり。

C:一般的な通常運転時の定義は，JIS Z 4001(原子力用語)にある“停止・出力・起動・燃料取替までの異常でない一サイクル運転”の定義であることから，本指針で通常運転時と定義している用語は出力運転とすべきであるとの再コメントがあった。

A:審議の結果，本文中の用語及び定義で示すようにこの指針内でのみ使用される用語の定義であることから，用語の修正は行う必要はないと結論付けられた。

- (6) 【審議(本報告)】“核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*”（SC68-6）

核燃料施設リスク評価分科会の吉田主査，眞部幹事，高橋常時参加者から SC68-6 に基づいて，“核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*”について本報告された。審議の結果，当該案は差戻しとなった。今回の報告を中間報告として，標準委員会の委員専用サイトに掲載する標準案について 30 日間の期間を設けて意見を求めることになった。

質疑等は以下のとおり。

C:検討の経緯が分からない。何が課題で、どのような議論を経てどのように対応したのか、説明がない。

A:地震の概略的評価手法は、新たに検討する必要がある、地震 PRA 作業会、外的事象 PRA 分科会のコメントを得つつ検討したこと、化学的影響評価は規制要求でもあり、評価対象とした。

Q:リスク専門部会ではどのように審議を進めたのか？

A:昨年 11 月に本報告を受け、決議投票を実施し承認された。その際にでた意見に対する対応案については 2 月のリスク専門部会で審議し、標準委員会へ本報告することが了承された。

C:要求事項が何なのか（PPT の説明では）分からない。

C:いきなり教科書のような説明を受けても理解できない。

Q:リスク評価の実績はあるのか？

C:六ヶ所再処理工場では 1980 年頃には詳細設計段階で約 10 事象の PRA を実施している。

A:ウラン加工施設でも旧 JNES が、事業者の協力のもとに概略的なリスク評価である ISA を実施した実績がある。

C:化学的影響はどのように評価するのか？次回でよいので説明して欲しい。

Q:Graded approach と言っているが、どの点か？

A:同じ種類の事故でも発生箇所によって影響が異なる。概略的な評価結果をもとにリスク又は影響が大きい事故を、例えば SAP のような階段状の選別基準を用いて選別し、発電炉の PRA と同レベルの詳細さで再評価する点である。ウラン加工、MOX 加工施設は概略的な評価のみで十分であろうと考えられ、再処理施設の一部の事故は、詳細な評価を行うことになると思う。

Q:化学的影響の評価尺度はどうするのか。放射線影響と比較できるのか？

A:NRC の ISA の影響区分に、両者の尺度が示されており、対比が可能である。附属書にも選別基準の参考として示している。

C:本日の説明対応では審議するに不十分であり決議投票はできないと考える。今回の説明は中間報告として、改めて本報告して頂くこととするが、標準委員会の委員専用サイトに標準案を掲載しており、30 日間の期間を設けて意見を求めることとする。

(7) 【報告・審議】“原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編：2016” の転載許諾手続き等における修正案について（SC68-7）

レベル 3PRA 分科会の成宮幹事から SC68-7 に基づき、“原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編：2016” の転載許諾手続きでの指摘事項等を反映した当該標準案の修正案について報告があった。審議の結果、当該修正案は編集上の修正であること及びこの修正案で発行することが決議された。

(8) 【報告・審議】“再処理施設における原子力安全の基本的考え方について” への意見募集結果（SC68-8）

事務局及び原子力安全検討会の河井幹事から SC68-8 に基づき、“再処理施設にお

ける原子力安全の基本的考え方について”への意見募集で意見がなかったことが報告された。審議の結果、当該レポートを発行することが決議された。

(9) 【報告・審議】標準活動基本戦略タスクの関係

①標準活動基本戦略タスクの人事について (SC68-9-1)

標準活動基本戦略タスクの中越事務局から SC68-9-1 に基づき、標準活動基本戦略タスクの人事について添付の提案があった。審議の結果、当該提案は承認された。

②標準策定5カ年計画の更新について (SC68-9-2)

標準活動基本戦略タスクの伊藤副主査、各専門部会から SC68-9-2 に基づき、各専門部会の標準策定5カ年計画案が報告された。審議の結果、当該案は承認された。

③標準委員会・用語辞典のコメント対応について (SC68-9-3)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC68-9-3 に基づいて、“標準委員会用語辞典 標準で共通に使用される用語の定義”の意見募集で受付けた意見への対応案が報告された。審議の結果、当該対応案を発行すること(WEB掲載のみ)及び基戦タスク傘下に用語辞典WGを設立することが承認された。

④ASRAM2017について (SC68-9-4)

標準活動基本戦略タスクの成宮幹事から SC68-9-4 に基づいて、“ASRAM2017の日本開催に係る原子力学会の主催(担当:標準委員会)(案)”が報告された。審議の結果、当該案が承認された。

(10) 【報告】標準活動基本戦略タスクの活動状況

①標準活動基本戦略タスク2016年度第四回議事概要について (SC68-10-1)

②標準委員会活動全体計画(年間工程表)について (SC68-10-2)

標準活動基本戦略タスクの伊藤副主査から SC68-10-1, SC68-10-2 に基づいて、標準活動基本戦略タスク2016年度第四回議事概要及び標準委員会活動全体計画(年間工程表)について報告された。

③倫理規程の周知徹底活動について (SC68-10-3)

標準活動基本戦略タスクの高橋委員から SC68-10-3 に基づいて、倫理規程の周知徹底活動の今年度の総括と来年度の開催計画について報告された。本件は今年度からスタートさせ、標準委員会専門部会及び分科会のすべての委員を対象に実施し、受講率は非常に高く、ほぼ全員の受講が確認できている。また、来年度も今年度と同様に実施予定とすることを提案し承認された。

④標準作成手引き(ガイドライン)の改定について (SC68-10-4)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC68-10-4 に基づいて、標準作成手引き(ガイドライン)の改定について報告があり、了承された。準備が出来次第、早期にWEB掲載分を更新することが確認された。

⑤2016年度収支見通し及び2017年度収支計画 (SC68-10-5)

標準活動基本戦略タスクの中越事務局から SC68-10-5 に基づいて、“2016年度収支見通し及び2017年度収支計画”が報告されるとともに、地震PRA標準、及び津波PRA標準の“ネイティブチェック”については、実施する方向で検討

し、今後具体的な進め方等、実施内容を詳細に詰めて行くことで了承された。

⑥規程の改定及び標準活動運営委員会の議事概要について (SC68-10-6)

標準活動基本戦略タスクの中越事務局から SC68-10-6 に基づいて、標準委員会規程の改定(平成 29 年 1 月 25 日第 5 回理事会改定)を報告するとともに、標準活動運営委員会の活動の概要を紹介し、標準委員会運営細則の改定については決議し承認された。

⑦標準品質向上に関する ANS との意見交換について (SC68-10-7)

⑧3 学協会での学協会規格整備計画の検討状況 (SC68-10-8)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC68-10-7, SC68-10-8 に基づいて、標準品質向上に関する ANS との意見交換及び 3 学協会での学協会規格整備計画の検討状況について報告された。ANS との意見交換を踏まえて ANS 内規と標準委内規との整合性確認をすること、学協会整備計画では事業者の第一義的責任を前提に規制委と役割分担して連携していくこと、エネ庁 RM とも連携していくことが了承された。

(1 1) 【報告】「統計的安全評価手法標準分科会」の再開、及び「BWR 熱流動評価分科会(仮称)」の設置について (SC68-11, SC68-12)

炉心燃料・熱水力関連標準の改定要否等検討のためのタスクグループの鈴木幹事から SC68-11, SC68-12 に基づいて、統計的安全評価手法標準分科会を再開すること及び BWR 熱流動評価分科会を設置することが報告された。

(1 2) 【中間報告】“余裕深度対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の改定について (SC68-13-1, SC68-13-2)

LLW 放射能評価分科会の北島幹事、柏木常時参加者から SC68-13-1, SC68-13-2 に基づいて、“余裕深度対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の改定について報告され、コメントがあれば事務局へ連絡することとなった。

質疑等は以下のとおり。

Q:後半の部分(検出困難元素)の部分の部分が全く理解できなかったが、評価しなければならない核種がいろいろあるはずだが、なぜ Cl だけなのか、標準には、他にも書かれているのか? ppm オーダーだけでなく、もっと分析の限界値を下げて、検出できない元素が、設定すべき元素の中にあるということか?

A:規制される難測定核種の起源元素(Ni-63 であれば、Co, Ni など)を放射化計算の INPUT 条件として設定する必要があるが、この元素濃度を化学分析によって求めている。数ある起源元素中で、現状の分析技術では検出できない元素は、Cl の他にも、Th, U などがあり、標準中では示しているが、ここでは、Cl を例示した。

Q:妥当性確認について、廃棄物を大型容器に入れて、放射能濃度を測定などによって決定すると理解しているが、“測定”も含めた妥当性確認が示されているのか?測定の標準化は重要ではないのか?

A:放射能の決定は、大きく、“放射化学分析”、“解析・評価”、“測定”から構成されているが、この標準は、“解析・評価”のみで、“測定”までは入っていない。

C:なぜ、“余裕深度処分”という用語を使用するのか?学会標準は、最新知見を

反映する必要があるのに、法律にまだ反映されていないからと言って、“中深度処分”を使用しないことは、理由にならない。

A:拝承。“中深度処分”に改める。

C:QMS は JAEC に従えばよく、規格等の引用は、規格制定年をきちんと示し、見直し頻度は、学会の定める頻度で良いはずだが、タスクで議論すること。

(13) 【中間報告】BWR 分析標準の進捗報告 (SC68-14)

水化学管理分科会の北島幹事、都筑常時参加者から SC68-14 に基づいて、標準“沸騰水型原子炉の水化学分析方法—放射性よう素”、“沸騰水型原子炉の水化学分析方法—コバルト 60 イオン”及び“沸騰水型原子炉の水化学分析方法—金属不純物”の進捗状況について報告された。

質疑等は以下のとおり。

C:この標準では、原子力安全に対する要求事項が明確にはされていないことから、学会標準として制定することは不適切である。このような分析方法に関する規定は、学会標準ではなく技術レポートか事業者のマニュアルとすべきである。

(14) 【報告】統合的安全性向上分科会での“原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準:201X”の検討状況について (SC68-15)

統合的安全性向上分科会の成宮主査、倉本幹事、林常時参加者から SC68-15 に基づいて、“原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準:201X”の検討状況について報告された。

質疑応答は以下のとおり。

Q:米国でも RIDM が既に行われているが、何が日本と異なっているのか。日本の特徴を教えてください。また、考慮する因子としてリスクを中心にするを謳っているが、たとえば深層防護などは考慮しないのか。

A:RIDM について、特に日本だけ違うことをやるわけではない。米国では 20 年以上 OLM, AOT 延長などリスク情報を活用してきている。しかし、それをトレースするのではなく、新検査制度や安全性向上評価において RIDM を事業者がやっていくと規制でも議論されており、まずは事業者がやっていく。標準において、例示もしながら共通的な骨格を作りたいと考えている。

深層防護については、決定論的考慮事項の中に入っている。参考資料で付けたタスク報告書の解説に記載がある。

Q:日本での語感からいくとリスクが中心であるが、米国ではリスク“も”活用するというスタンス。その辺りを配慮してほしい。

A:キーエレメントの話でもあったが、リスク情報活用標準 2010 は RG 1.174 を勉強して作ったものであり、安全余裕や深層防護についても入れている。注意して考慮していきたい。

Q:キーエレメントの重み付けにおいては、ステークホルダー全員で合意するのか、それとも 7.5 節以降で工夫することになるのか、どちらを想定しているか教えてください。

A:実際は事業者の会議体の中で、どこがステークホルダーに影響があるかを考え

るというように、検討要素の一つとしてステークホルダーを考えることになる。
Q:”統合的”という言葉はリスクインフォームドやデシジョンメイキングなど色々な要素にかかっているもの。事業者の範囲に限る様な活動というスタンスでは、違うものになるのではないか。そもそも問題の定義のところで、ステークホルダー、特に規制と事業者が課題解決を行う対象について対話することがポイントであり、ここもインテグレートする部分であると考え。また、14のキーエレメントを重み付けする方法論という意味でのインテグレーション、透明性の観点でのインテグレーションなどもある。

A:統合的の意味を明確にして、議論をしていくようにする。

Q:プロセスのインテグレーションが大事であり、IRIDMは規制側にも要求事項となるべき。

A:検討する。

(15)【報告・審議】“原子力発電所におけるシビアアクシデントマネジメントの整備及び維持向上に関する実施基準：201X”改定に関する中間報告（SC68-16）

シビアアクシデントマネジメント分科会の植田主査、鎌田幹事からSC68-16に基づいて、“原子力発電所におけるシビアアクシデントマネジメントの整備及び維持向上に関する実施基準：201X”改定に関して中間報告され、コメントがあれば事務局へ連絡することとなった。

質疑等は以下のとおり。

Q:マネジメントクラスについては今後、どのように実効的、具体的に活用していくことを考えているのか。

A:具体的には、教育訓練、保守管理、手順書等への活用を考えている。但し、マネジメントクラスについては、事故シーケンスグループ別に導出しており、実務への適用については、適用分野の考え方及び重み等に応じて複数シーケンスを横断的、時間フェーズ毎等に整理し直す等の編集が必要になる。手順書等では、シビアアクシデントはDBAと異なり、事象シナリオが多岐に亘るという特性も考慮する必要がある。

Q:SAM標準、マネジメントクラスについては、ある程度事業者の実務に活用し、得られた成果等の知見を標準に反映していくことが必要ではないか。

A:以前にも同様のコメントを頂き、先行的にSAM標準のパイロットスタディを行い、成立性等の確認をしてはどうかとの御提案も頂いたが、現在、各電力は規制対応で手一杯の状況であり、その実現は難しいと考えられる。将来的には、標準発行後に安全性向上評価（活動）の中で適用を図り、PDCAを回していくことを考えている。

Q:SAM標準改定の成果は学会発表、国際会議への発表を予定しているのか、また発表する場合、JANSI、学会いずれの立場で発表するのか。

A:SAM標準初版については、H26年にPSAM-12、NUTHOS-10で発表済みであり、本改定版がH29年度中に御承認頂ける目途が立てば、来年のPSAM、NUTHOSでマネジメントクラス、AM策定ロジックについて発表したいと考えている。発表者の立場は原子力学会（SAM分科会）である。

(16) 【報告】第2回 JIWG 及び JCNRM(2017.2)の報告について(SC68-17-1, SC68-17-2)
リスク専門部会の成宮幹事から SC68-17-1, SC68-17-2 に基づいて, 第2回 JIWG
及び JCNRM(2017.2)について報告された。

6 その他 (次回日程)

次回は2017年6月7日(水) 10:00 から

以 上

標準活動基本戦略タスク 委員名簿

(タスク)

2017.03.06現在

	タスク役職	氏名(敬称略)	委員会・専門部会役職	所属
1	主査→3/8主査及び委員 退任	越塚誠一	基盤・応用専門部会副部長	東京大学
2	主査代理→3/8主査(標準委員会委員長指名)	伊藤裕之	標準委員会 委員	原子力安全推進協会
3	タスク幹事	成宮祥介	標準委員会委員 リスク専門部会幹事	関西電力
4	タスク幹事	河井忠比古	標準委員会 委員	原子力安全推進協会
5	委員→退任	吉田啓之	基盤応用・廃炉技術専門部会 前幹事(2/27幹事退任)	原子力研究開発機構
	委員→新任	堺 公明	基盤応用・廃炉技術専門部会 新幹事(2/27幹事指名)	東海大学
6	委員	加藤和之	原子燃料サイクル専門部会 幹事	原子力損害賠償・廃炉等支援機構
7	委員	山本章夫	リスク専門部会 副部長	名古屋大学
8	委員	中村武彦	システム安全専門部会 副部長	原子力研究開発機構
9	委員	木倉宏成	原子燃料サイクル専門部会 委員	東京工業大学
10	委員	高橋久永	標準委員会 委員	三菱重工業
11	委員→退任	鶴来俊弘	標準委員会 委員1/31退任	中部電力
	委員→新任(主査指名)	竹山弘恭	標準委員会委員3/8選任, 3/21理事会承認予定	中部電力
12	委員	鈴木嘉章	システム安全専門部会 幹事(3/2幹事指名)	原子力安全推進協会
13	委員→新任(主査指名)	萩原 剛	基盤応用・廃炉技術専門部会長	東芝
	常時参加者	関村直人	標準委員会 委員長	東京大学
	常時参加者	宮野廣	標準委員会 フェロー委員	法政大学
	事務局	中越哲浩	標準委員会事務局	原子力学会

(タスク幹事会)

2017.03.06現在

	タスク役職	氏名	委員会・専門部会役職	所属
2	主査代理→主査	伊藤裕之	標準委員会 委員	原子力安全推進協会
3	タスク幹事	成宮祥介	標準委員会委員 リスク専門部会幹事	関西電力
4	タスク幹事	河井忠比古	標準委員会 委員	原子力安全推進協会
5	委員→退任	吉田啓之	基盤・応用技術専門部会 前幹事(2/27幹事退任)	原子力研究開発機構
	委員→新任	堺 公明	基盤・応用技術専門部会 新幹事(2/27幹事指名)	東海大学
6	委員	加藤和之	原子燃料サイクル専門部会 幹事	原子力損害賠償・廃炉等支援機構
10	委員	高橋久永	標準委員会 委員	三菱重工業
11	委員→退任	鶴来俊弘	標準委員会 委員1/31退任	中部電力
	委員→新任(主査指名)	竹山弘恭	標準委員会委員3/8選任, 3/21理事会承認予定	中部電力
12	委員	鈴木嘉章	システム安全専門部会 幹事(3/2幹事指名)	原子力安全推進協会
13	委員→新任(主査指名)	萩原 剛	基盤応用・廃炉技術専門部会長	東芝
	事務局	中越哲浩	標準委員会事務局	原子力学会

以上